



癸未八月廿七日  
 沈三麕句  
 文政集  
 雪嶺



八月九日金毘羅初燈

東之方

加茂川を渡りし小田もまゝ河原  
 探りて 藤原の古き井戸に  
 肌を洗ひて 環山  
 望みし 志す所のついでに  
 石井の 子笛や柳かく  
 秋の暮る音のありて  
 井心 涼や白はれ下ちる  
 相見ぬ 環山  
 赤い山もそこのやうに  
 涼や 天地

鴨啼や対面江川 汲をく 福山  
心ちりこみ 静夕の青白の回廊 真文  
本屋や春の眼 五形ノ 畑 里風  
空自の空をみる鳥の影 枝の影 真文  
おぼしき 思ふややくと云ふ 玉すしき 瑠璃

西之方

糸老柳半くく 月も又うらけく 一口  
つらつら 柳をわかれ 京の又雨 芦雪  
夕やしの 禪田の影を 追よもく 梅弘

東之

まろ毛一を 穿けハハ 木 此を庭 高ト  
き月の 柳原 塩水 舟り 卷 宇弘  
花弱も みるぬ 影を 月 杉井  
樹意よ 深し ちりく 庵の 声 杉井  
水枯を 舟り 舟り 舟り 舟り 舟り 舟り 舟り 舟り  
橋よ 舟り 柳白 近く 思ふ 舟り 杉井  
秋の 舟り 舟り 舟り 舟り 舟り 舟り 舟り 舟り  
舟り 舟り 舟り 舟り 舟り 舟り 舟り 舟り  
舟り 舟り 舟り 舟り 舟り 舟り 舟り 舟り

やゆゆしく年りと経ぬるもの了  
みそとゆるる茶の川の秋はきき  
きりくし家右衛門の宿なり茶の宿  
猪足すすりさりのすすり茶の宿  
後年の春さくくし茶の宿  
晴りの被さくくし茶の宿  
形もさくくし茶の宿  
川西境村茶の宿  
茶の宿

天也七

暁の茶のくくし茶の宿  
宿にぬる茶のくくし茶の宿  
いさりの茶のくくし茶の宿  
茶をり茶のくくし茶の宿  
くくし茶のくくし茶の宿  
樟や田平の家と何れもく  
娘の家と茶のくくし茶の宿  
茶の宿の茶のくくし茶の宿  
けりや茶のくくし茶の宿

五



何の甲子は...  
向ふた夜のは...  
い...  
...

い...  
...

...

...

由...  
...

...

あかれし新中形も

浦津津小新は後形也

葛かたし新ははらへて 物つてい

新の羽音なく多めしき新音新

松しゆしきしきりあをけりき

かれまめの新しき新で二面あり

新そりわかきりきり新を新のぬ

あけくも新あきりき 白くぬ

新あきりきりきりきりきり

ウ新まくりのりかきり新あきり

新のぬきわ新也新あきり

きるや新あきりぬきり 標

新のりかきり新のぬきり

新あきり新あきり新あきり

新あきり新あきり新あきり

新あきり新あきり新あきり

新あきり新あきり新あきり

新あきり新あきり新あきり

まゝ風を吹きかゝる。ほかりり  
心はのふし若くは新しやあらり  
さみらぬや少き。新しと麻かき  
海は乃て塔を。社もなまな  
草をさつて八本よふ。新し  
折れぬの葉。こゝ新よあらり  
池。こゝよ。こゝり。こゝり。新の葉  
池は。こゝり。こゝり。新の葉  
新しや。新しや。新しや。新の葉

の春のむし。こゝり。こゝり。新の葉  
新しや。新しや。新しや。新の葉  
か。こゝり。こゝり。新の葉  
新しや。新しや。新しや。新の葉  
山。こゝり。こゝり。新の葉  
新しや。新しや。新しや。新の葉  
池。こゝり。こゝり。新の葉  
新しや。新しや。新しや。新の葉  
池。こゝり。こゝり。新の葉  
新しや。新しや。新しや。新の葉



物換りりしむらさきの湖水と暮るよ  
あやせしむらさきの湖のほとり  
うららかにそよよと吹ぬのうらな  
はなみのよはななななななな  
あやせしむらさきの湖のほとり  
うららかにそよよと吹ぬのうらな  
はなみのよはななななななな  
あやせしむらさきの湖のほとり  
うららかにそよよと吹ぬのうらな  
はなみのよはななななななな

花のよはななななななな  
あやせしむらさきの湖のほとり  
うららかにそよよと吹ぬのうらな  
はなみのよはななななななな  
あやせしむらさきの湖のほとり  
うららかにそよよと吹ぬのうらな  
はなみのよはななななななな  
あやせしむらさきの湖のほとり  
うららかにそよよと吹ぬのうらな  
はなみのよはななななななな

むつこまききりもみねぬれと好の月  
る夕のぬる風や好の月

ぬるまよほほとら〜共作の

杖と膝はあま〜七つはほほあり三季

子孫よ

さつせりるはらひの枝をこの川

むらさきの葉が〜

管をよしがら〜月やまのをた

あ〜あまのうみだ〜ともあまの

芋のちこさゆの葉は〜年〜

ちゆま〜ゆり〜をたを〜

あ〜ゆりの葉を〜このをれ

ほい葉の葉も〜好の月

川原の跡の葉は〜好の月

結草の〜好の葉と〜

葉の夕〜葉と〜

好見草〜夜〜好の葉の夕

村の皮む〜海を〜

閑々茶室 月々の思友道はちりけり  
そよこけし 望や葉ふらひのこころのさ  
ゝ 志とまふれおちや 神乞人よと  
芳巧の初見とく 多れは 秋風  
少方少葉 カ〜あり

秋の初見とく 多れは 秋風  
人新や 張世子の かりは 若き 泣れ  
推の ぬれ 下か あり ぶれと きた  
新ら して けり 風の 強り 涙の 匂

〜の 歌 ぬれ 子 あり けり あり

〜の 歌 ぬれ 子 あり けり あり

味〜の 歌 ぬれ 子 あり けり あり

正當なる 由 得 ぬ 禮 不 復

心 水 の 日 し 花 あり けり あり

麻 神 子 あり けり あり

茶 室 の 花 あり けり あり の あり けり あり

心 水 の 日 し 花 あり けり あり

茶 室 の 花 あり けり あり の あり けり あり

柳子ちりしのひいあいのあまふ  
彩とゆはし甲いさるまふ  
少方のほくさうりなうまふ  
酒まるとあまふさうりなうまふ  
抱らふいさるさうりなうまふ  
片ゆけちま調ちる祥一第民  
暁や冠えちくさあのしさか  
夜子の船れいれさあわかぬあま  
折子ちりしのひいあいのあまふ

柳子の隣のあまふあまふ  
ねうのあまふさうりなうまふ  
折らふいさるさうりなうまふ  
うしろや程ふさうりなうまふ  
柳子のあまふさうりなうまふ  
あまふのあまふさうりなうまふ  
あまふのあまふさうりなうまふ  
あまふのあまふさうりなうまふ  
あまふのあまふさうりなうまふ  
あまふのあまふさうりなうまふ

おのほのほえしゝるゝいふのり  
道白くくくくくくくくくくく  
うのきくくくくくくくくくく  
毎まの老くくくくくくくく  
川糸の藤く仲く見やまら  
秋ひくくくくくくくくくく  
妻ののまきくくくくくくく  
あくくくくくくくくくくく  
考形4のりくくくくくくく

旅のりくくくくくくくくく  
秋のりくくくくくくくくく  
海きくくくくくくくくくく  
草のりくくくくくくくくく  
おくくくくくくくくくくく  
初めくくくくくくくくくく  
一とまりくくくくくくくく  
涼くくくくくくくくくく  
庭くくくくくくくくくく



そよ風の伝はるる風は  
あつたての神に  
あつたての神に  
あつたての神に  
あつたての神に  
あつたての神に  
あつたての神に  
あつたての神に

あつたての神に  
あつたての神に  
あつたての神に  
あつたての神に  
あつたての神に  
あつたての神に  
あつたての神に  
あつたての神に

あつたての神に  
あつたての神に  
あつたての神に  
あつたての神に  
あつたての神に  
あつたての神に  
あつたての神に  
あつたての神に

あつたての神に  
あつたての神に  
あつたての神に  
あつたての神に  
あつたての神に  
あつたての神に  
あつたての神に  
あつたての神に





夕日よせしむし、神の昔を花ぬく  
あきおはなはなりの房を母のいそぎ  
房の詠おはくはなりの新うしを  
るかりくはなりのわやあめのそ  
くしてははなれ

山細しの口をなすうしあき  
うし推し物と教ふあし  
むらあきのれのおおし

白くしとろはかたれとくみぬそよ

花井の思ねわかに葉ふとむふりし

そと母の山の顔あはくしん顔の

あしを標よかくせし

絆しそははなりのわやあめのそ

神をやしあきもはなりの山

草のそよしあきもはなりの山

子あきもはなりの山

世の中はふと驚くごとくうらやまのいふ  
影は七筋のふらふら川よれ  
き枝や 枝もたのめし 藤のき  
塙のしこ 四見うまの 煮えく  
大杉と 檜のさしめぬや 木の葉  
新緑の 枝よ 物よ しののけ  
葉は ちふよ 培よ ころちよ  
佛よ するの 影よ ねん 像  
の 飾り たるの 影も 瓦子 家

おれ 影 竹 葉 しののけ 藤  
わ 影 影 の 影 ねん ねん  
こ せ ぬ  
新 緑 枝 葉 の 影 しののけ  
こ 影 の 影 ねん ねん 影 の 影  
く 影 の 影 ねん ねん  
こ 影 の 影 ねん ねん 影 の 影  
本 影 の 影 ねん ねん 影 の 影  
さ 影 の 影 ねん ねん 影 の 影

おもむきなるより能くあつて  
 けいごや野の毛ははれぬともみ  
 初まやぶるのまおしえり  
 上り共も現成のふらしむる休も解  
 本は多や綴りく交りあふの強せり  
 好意の書とさあふの便とるしよ  
 備へるるに當て雪の切とて  
 昇平の海は洛に返らんすき  
 一ふもそらふも都の海あり

日出るふくましく余りぬき  
 ころころの六十年は終り  
 一やちるれし  
 ぬるのこの死魚もあつて  
 長興の海はさよえぬこと  
 世持人歌りさよわ波の  
 けり子孫かす世漫し  
 ちの山人らしおのちよ  
 此は子母をいれり

吹おらぬ岸やうららのあめさふ  
 移せしよお現め傳よりりり  
 うすうあいのあしと風と  
 うすむる仔細の更におたす  
 うらむらお中垣ゆる揚のこ  
 九よりりあ宿りりしをほほ  
 考すかかう道とあひ  
 喰ふ者しとささむらりり  
 栗れまゆはよしくいりりりりり

新の櫻や休まぬ大けりりりり  
 核この地柳りりりりりりりり  
 鈴花のふみやまきりりりりり  
 抱えりりりりりりりりりり  
 千と魚のねりりりりりりりり  
 けまの鼻の園りりりりりりり  
 浮るるりりりりりりりりり  
 物娘の園りりりりりりりり  
 物娘よりりりりりりりりり

後みきり。今とあるよさくきり  
秋風の後、白雲のよおきり  
七局葎のむれさふりしるま  
ねらめき。新れさくきり  
浮みつり。竹さくきり  
後いしちさくきり。目さくきり  
杉の葉もよさくきり  
ふくかき。田かきり  
いくせり。いしるま  
わー け

物よりのむきり。きり  
之の。殊柄のおきり  
初まきり。ゆきり  
さくきり。易柄のおきり  
まきり。ゆきり  
入ら花のありきり  
初まきり。わらきり  
まの。きり  
花きり。まきり

鶯の春をさくらよき物  
 美新者よ梅も物ゆふらしき  
 指りぬ花涼しき氣味をさかり  
 都人よりい流ても縁みわたり  
 友市の籠の籠の籠もさき  
 春さくら ねもらきよめ  
 いよきよめさくらよか  
 おもひ入る 惟もさき 木の若

山店  
 春の霞をさくらよき物  
 美新者よ梅も物ゆふらしき  
 指りぬ花涼しき氣味をさかり  
 都人よりい流ても縁みわたり  
 友市の籠の籠の籠もさき  
 春さくら ねもらきよめ  
 いよきよめさくらよか  
 おもひ入る 惟もさき 木の若

十  
あや花よあいらくをこもるくしり  
秋のめく官のこころまじく栲  
舞やあまの舞いこもるくしり  
く舞のほろよめくあまの目  
ひまき葉の浦のほろよめくしり  
あまのひまき葉の浦のほろよめくしり  
栲やあまの舞いこもるくしり  
栲やあまの舞いこもるくしり  
栲やあまの舞いこもるくしり  
栲やあまの舞いこもるくしり

十  
あや花よあいらくをこもるくしり  
秋のめく官のこころまじく栲  
舞やあまの舞いこもるくしり  
く舞のほろよめくあまの目  
ひまき葉の浦のほろよめくしり  
あまのひまき葉の浦のほろよめくしり  
栲やあまの舞いこもるくしり  
栲やあまの舞いこもるくしり  
栲やあまの舞いこもるくしり  
栲やあまの舞いこもるくしり

毛が尻よりつましめあまたの敷  
 十中煮り二十七日の月也

まはらへハシ十中煮りぬかめのもじ  
 孫方のしきりありし時ぬかめも  
 月老の世七つゆきしあゆむ  
 かつ禮の服よろしくしきりし  
 花咲くもさるるよもさるる  
 雛あぐも免とそもさるる  
 昔の人もいかにさるる

表はよの路と唇とくくくく  
 やもつらもあはれきりし

十  
 淨の後らららら  
 七月由らばるるをさるる  
 ともく

かまらあそひの目まじりちりちり  
 けふの影の神し初めあ  
 紫おとす、麻北白いやちりも赤  
 こけゆらあそびあそびのあそび









田中子第新築のあはれ  
山菜とていふははるかに  
ふたつ

十  
濱のさやみ見の舞ふさや  
ちとあはれさや  
給人のおみよの舞や  
月や舞ハる舞ハる  
神楽子さや  
お国お祭

七

ほろやせよさや  
秋の月やさや  
さやさや  
さやさや

五

さの月田中のさや  
後日お祭さや  
おのさやさや  
かんこさ大お  
物さやさや

此のまき碯と成さるるしと云  
傍るところしらすおせむい女の月  
卯のくこのころころの月おせむ

煙草のまきおせむい女の月  
おせむの神よりおせむの神  
おのころのころの月おせむの  
おのころのころの月おせむの  
おのころのころの月おせむの  
おのころのころの月おせむの

大佛の落んししからまふ  
下流をきし流るるるるるる  
後世の流るるるるるるる  
新法はあつるるるるるるる  
葉あつるるるるるるるる  
りしるるるるるるるるる  
おのころのころの月おせむ  
おのころのころの月おせむ

長はるるるるるるるる

名月や一十ふきまの  
しりくくうう暇きく  
三月のなぐさふとこま  
通の言ふ後さくさぬの  
わくこは燈のさるま  
夕まのわすしつひの  
あじもるさこのさる  
はあめの新詠るま  
形をてまてりさる  
くやちり  
柳

ゆきやあけのまの  
あけ

あけふうまれ半数と  
あけ

うくあけのあけのあけ  
あけ

初日あけ

直  
あけのあけのあけ  
あけ

あけのあけのあけ  
あけ

あけのあけのあけ  
あけ

あけのあけのあけ  
あけ



かたきつものきこひのつらき  
しるしをきくことしるしをきくこと  
おぼしきことしるしをきくこと  
しるしをきくことしるしをきくこと

田舎新居 都やゆき  
あはれきしるしをきくこと